

ガンマグロブリンの投与方法の検討、無効例の治療法
(分担研究：川崎病サーベイランスとその解析に関する研究)

研究協力者： 馬場國蔵

要約： ガンマグロブリン超大量1回投与療法に追加投与をした例としなかった例の検討をどう行うためガンマグロブリン超大量1回投与療法を行っている施設にアンケート調査を施行することとした

見出し語： ガンマグロブリン療法，1回超大量投与療法，追加投与

<目的>

昨年度は川崎病に対するガンマグロブリン超大量1回投与療法について筆者の病院のデータをパイロットスタディーした。その後症例数が増え、本院開院後2年6ヵ月の間に計34例の川崎病患児の入院を経験した。この間、本症に対してはガンマグロブリンを使用しないか、超大量1回投与療法を行うかとしている。後者の場合、昨年度報告したように1回投与のみでは十分に解熱しえなかった例には追加投与をおこなっている。残念ながら1例に有意な冠動脈瘤（中等度瘤）を残してしまった。昨年述べたように超大量1回投与療法のほうが本邦で保険診療上認められている分割投与方法より成績がよい印象にあるが、それでも冠動脈病変の発生を0にはしえない。そこでガンマグロブリン超大量1回投与療法を行っている他施設に後で示すアンケートを送付し検討することとした。

西神戸医療センター 小児科

<方法>

アンケートの様式は次ページに示す。他施設を含めるのでその内容は限界が生じる恐れがあるができるだけ簡素とした。ガンマグロブリン投与前と投与後ないし追加投与前の所見を検討する内容とした。

γ-G1. 1回大量投与療法の調査票
(1995, 1~1996, 12) 病院

No. (), 川崎病: (典型例, 非典型例)
 症例IDNo. (), 姓名(. .), 性別(M, F),
 入院時体重: Kg.
 生年月日: 年 月 日
 川崎病発症日: 年 月 日(歳 月)
 入院年月日: 年 月 日(第 病日), 入院期間(日)
 初回γ-G1. 投与日: 年 月 日(第 病日)
 2回目γ-G1. 投与: (-), (+): 年 月 日(第 病日)
 初回γ-G1. 投与量: g/Kg. 総量 g
 2回目γ-G1. 投与量: g/Kg. 総量 g
 3回以上γ-G1. 投与: (-), (+): 内訳()

入院時原田のスコア(点)
 結果冠動脈病変: (-), (一過性拡大), (瘤形成), (巨大瘤)

症状と検査データ(1回だけの投与例も初回投与後のデータを右段に記載してください)

	γ-G1. 投与前(病日)	初回投与後2回目まで(病日)
1. 最高発熱	度C ()	度C ()
2. 白血球数	()	()
3. 好中球	% ()	% ()
4. 好中球の単核球	% ()	% ()
5. ヘマトクリット	% ()	% ()
6. 血小板数	0000 ()	0000 ()
7. CRP	mg/dl ()	mg/dl ()
8. 血沈値(1時間値)	mm ()	mm ()
9. 血清蛋白量	g/dl ()	g/dl ()
10. 血清アルブミン	g/dl ()	g/dl ()
11. IgG	mg/dl ()	mg/dl ()
12. GPT	()	()

備考:

<結果>

集計結果は次年度に報告したい。

<考案およびまとめ>

川崎病の原因が不明なため本症に対する病因的な治療はなく、現在までガンマグロブリン療法を乗り越えるものもない。そのガンマグロブリン療法のやりかたも煮えつまってきたり、どのような投与法を行おうとも冠動脈瘤の発生を0にしないのが現実である。現在本症の新しい治療法を考案する、異なった治療法の比較を行おうとするには、1施設では患者数が集めきれない、ホスト側の因子が多すぎる、担当医が最も良いと考えるガンマグロブリン療法以外の療法のインフォームド・コンセントが得られない、保険診療上の制約がある、などの問題点がありすぎて手がつけられず、ゆき詰まっているのが現状であろう。そこで筆者が現在最も有効であると思っているガンマグロブリン超大量1回投与療法を行っている施設に前述の調査票をお願いした。

入院時所見から1回投与ですまず、追加投与をしなければならないのはどういう所見か。

追加投与をしなければならなかった症例の1回投与後の所見としてはどのようなものがあげられるか。

などを中心にこの療法の効率的なやりかたを示せればと考えている。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約: ガンマグロブリン超大量 1 回投与療法に追加投与をした例としなかった例の検討をどう行うためガンマグロブリン超大量 1 回投与療法を行っている施設にアンケート調査を施行することとした